第12課　悪しき決定に対処する

【暗唱聖句】

「わが神よ、御前に恥じ入るあまり、わたしは顔を上げることができません。わたしたちの罪悪は積み重なって身の丈を越え、罪科は大きく天にまで達しています」エズラ9:6

【日曜日・ネヘミヤの反応】

「またそのころ、ユダの人々がアシュドド人やアンモン人やモアブ人の女と結婚していることが、わたしに分かった」ネヘミヤ13:23

ネヘミヤは異邦人女性と結婚している人たちがいることを知ります。これは神様から禁じられていたことでした。その結果何が起こったのかというと、「その子供たちの半数は、アシュドドの言葉あるいはそれぞれの民族の言葉を話し、ユダの言葉を知らな」（13:24）くなってしまったのでした。祭司たちはアラム語で聖書を教えていましたが、言葉がわからなければそれを理解することができません。ましてや、一番大きな影響力を持つ母親は神様を知らない異邦人であれば、なお一層子供たちは神様から離れてしまうことでしょう。ネヘミヤは契約を破ることによって被ることになる聖書の呪いの言葉を語ったり、間違った行動を促した首謀者たちに対しては公の場で打ったり、髪の毛を引き抜いて辱めました。これはすべてことの重大さを気づかせるためでした。

　多くの人はこの世の生活に基準が置かれ、愛は最強のものであると信じています。しかし、わたしたちは神の国に生きる基準があり、神への愛が何ものよりも先だたなければなりません。これは神様から離れないで、自らの身を守るためです。

【月曜日・ネヘミヤへの叱責】

「イスラエルの王ソロモンすらも、このようにして罪を犯したのではなかったか。数ある諸国の中でも彼のような王はおらず、神に愛され、神によってすべてのイスラエルの王に立てられた、その彼でさえ、異民族の妻たちによって罪に引き込まれてしまった」ネヘミヤ13:26

イスラエルにとって最も偉大な王の一人ソロモンでさえ、異邦人の妃をめとったために、多くの罪を国内に引き込む結果につながっていったのでした。自らの選択の誤りが、罪の中へ自らを引き込むことになったのでしたが、これは初めから容易に考えられることでした。選択の誤りというのは、神様の命令に背くことです。

　ところで、異邦人との結婚を神様は直接的に禁じておられるのではありません。その証拠にモーセはミディアン人のツイポラを妻とし、ボアズはモアブ人ルツと結婚しています。問題なのは、他民族であるということではなく、真実の神様への信仰がないこと、特に別の神々を信仰している人との結婚なのです。ネヘミヤの時代の異教徒の女性は、とても強い信仰を持っており、自分たちが信じる信仰を容易に捨てようとはしませんでした。これを聖書はつりあわないくびきと表現し注意を促しているのです。

　「こういうわけで、男は父母を離れて女と結ばれ、二人は一体となる」（創世記2:24）とありますが、この一体になるとは、肉体的だけでなく霊的に一体となるという意味もあります。それはわたしたちがイエス様と霊的に一体となるということにもつながっていて、だから私たちとイエス様との関係を夫婦の関係に例えられているのです。つりあわないくびき同志では、肉体的には可能でも霊的に一体になることはありません。

【火曜日・エズラの反応】

「イスラエルの民も、祭司も、レビ人も、この地の住民から離れようとはしません」エズラ9:1

異教徒の女性と結婚している事実は、エズラのもとにも伝えられました。しかも、その中には一般人だけでなく、祭司やレビ人も含まれており、彼らはこの地の住民から離れようとしないのでした。この事実を耳にして、エズラは茫然自失となります。民の罪悪のために捕囚として捕えられ、神様のご恩寵によってやっと捕囚から解放され、帰還できたにもかかわらず、その恩を忘れ再び神様の戒めを平然と破っていることがわかったからです。エズラはなぜユダの人々が捕囚となって苦しい経験を通らされたのか、その理由を調べて結果、イスラエルの背信の主な理由が、周囲の国々と入り混じったことにあることを学んでいました。神様が言われたように、彼らから離れていれば、このような悲劇は起こらなかったのです。このような教訓があるにも関わらず、なぜ同じ過ちを繰り返すのかと、エズラは心を痛め、宗教的憤りと悲しみに圧倒されたのでした。

【水曜日・行動するエズラ】

「今、先祖の神なる主の前で罪を告白し、主の御旨を行い、この地の民からも、異民族の嫁からも離れなさい」エズラ10:11

会衆全体は一致して外国人の妻を追放する決定を下します。驚くべきことに、この決定に111人もの男性が同意し、妻から離れることになりました。この離れるという言葉は、いわゆる離婚を表す言葉とは違う言葉が使われています。これはそもそも異本人との結婚そのものが、トーラーの教えに反していたために、それが無効にされたということ意味していました。子どもがいる場合は、その子どもも一緒に追放されました。とても残酷で悲しい出来事です。罪は悲劇を生みだします。このような厳しい要求がユダの人々になされたのは、やはり彼らが特別な民だったからです。しかし、異教徒との結婚が、神様から引き離す結果になりかねないことは現代も同じです。またこのような荒療治は、霊的な解釈としてイエス様との間に何ものも入れてはならない、徹底的に排除しなければならないことを教えています。

【木曜日・今日の結婚】

結婚について神様は大変重要視しておられることがわかります。愛していれば誰でも良いのではありません。神様の教えに従って結婚をしないために、多くの悲劇が生まれているのも事実です。ただ、このネヘミヤとエズラのときに行われた異教徒の妻や子どもたちを追放することが、その後のすべての人々に当てはまるわけではなく、その特殊な状況の中で一度限り行われたことでした。

「既婚者に命じます。妻は夫と別れてはいけない。こう命じるのは、わたしではなく、主です…ある信者に信者でない妻がいて、その妻が一緒に生活を続けたいと思っている場合、彼女を離縁してはいけない。また、ある女に信者でない夫がいて、その夫が一緒に生活を続けたいと思っている場合、彼を離縁してはいけない。なぜなら、信者でない夫は、信者である妻のゆえに聖なる者とされ、信者でない妻は、信者である夫のゆえに聖なる者とされているからです。そうでなければ、あなたがたの子供たちは汚れていることになりますが、実際には聖なる者です。」第一コリント7:10～14

これらの御言葉は、多くの日本人クリスチャンの家庭にとって大きな慰めとなることでしょう。家族も必ず救われることを信じて、祈り続けていくことがわたしたちの務めです。